

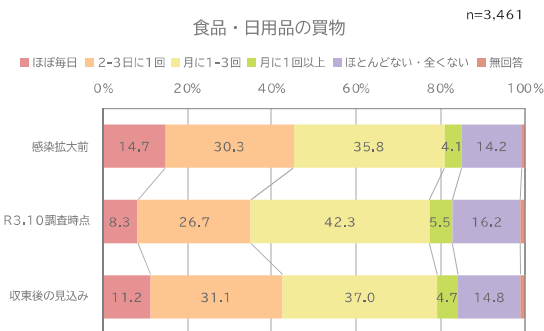
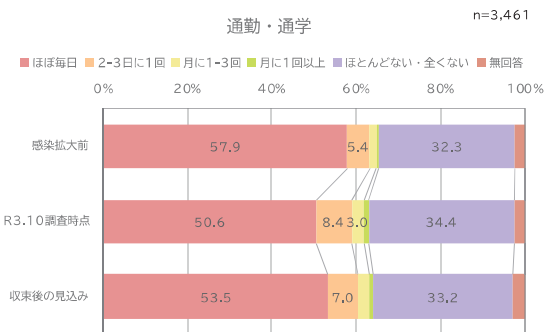
新型コロナウイルス感染症による影響

第6回近畿圏パーソントリップ調査では、新型コロナウイルス感染症に関する補完調査として外出状況の変化（活動頻度や移動手段の行動の変化）について、奈良県全体で3,461人の方に感染拡大前と調査時点で活動の種類ごとにどのくらいの頻度で行っているか、また収束後はどのくらいの頻度で行うと思うかを調査し、回答をいただきました。なお、収束後の見込みに関しては、回答者の想定によるものです。

1 日常的な活動の頻度

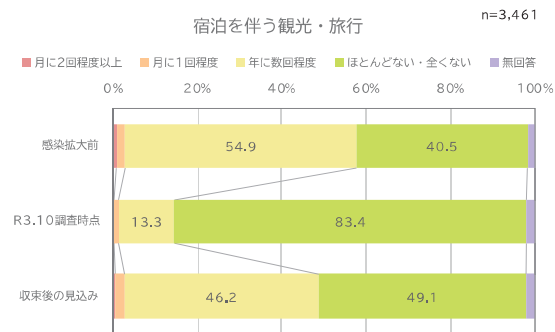
●ほぼ毎日実施されていた活動（通勤・通学、食品・日用品の買い物）においては、調査時点では感染拡大前より活動頻度が低下しており、収束後には頻度が上昇するものの、感染拡大前の頻度には及ばない見込みとなっています。

図41 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出頻度の変化（日常的な活動）



注) 感染拡大前: 令和2年1月「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」、同年3月「世界的大流行(パンデミック)」の宣言以前の通常期
R3.10調査時点: 緊急事態宣言がなされておらず、陽性者数が一定程度減少した時期
収束後の見込み: 自分の意思で自分の活動等を選択することができる状況
資料: 第6回近畿圏パーソントリップ調査(新型コロナウイルスの影響に関する補完調査)

図42 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出頻度の変化（非日常的な活動）



注) 感染拡大前: 令和2年1月「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」、同年3月「世界的大流行(パンデミック)」の宣言以前の通常期
R3.10調査時点: 緊急事態宣言がなされておらず、陽性者数が一定程度減少した時期
収束後の見込み: 自分の意思で自分の活動等を選択することができる状況
資料: 第6回近畿圏パーソントリップ調査(新型コロナウイルスの影響に関する補完調査)

2 非日常的な活動の頻度

●宿泊を伴う観光・旅行活動においては、感染拡大前は「年に数回程度」が5割以上を占めていたが、コロナ禍の調査時点では大幅に減っています。収束後には頻度が調査時点から大きく上昇するものの、感染拡大前の頻度には及ばない見込みとなっています。